

「今日の説教、聴き手のために」

2010/12/12 明治学院教会(213)

(このプリントは毎週作っているものです)

牧師 岩井健作

「絶えず祈れ」

テサロニケの信徒への手紙一5章16節-24節

選句「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい」

- 1、待降節の第三主日、日本基督教団の聖書日課には標記の箇所が選ばれています。何故か。それは「救いを確信しつつ待ち望む」信仰が述べられているからでありましょう。「テサロニケ第一」の概略のおさらいをしておきます。パウロが2回目の旅行で49年テサロニケに伝道した時、多くのギリシャ人が「福音」を受け入れました(使徒言行録17:1-4)。しかし、彼はユダヤ人の迫害を受け、ここを去り、アテネに移ります。後、弟子テモテをこの地に派遣し信徒を激励します(Iテサ2:17-3:5)。迫害の最中でなお「わたしたちは昼(暗闇ではなく)に属している」(5:8)と信徒たちの確かな信仰生活を知り、「勝って兜の緒を締めよ」ではありませんが、さらに激励のために送られたのがこの書簡です。だから、ここには、「黒ネコヤマト」の標語ではありませんが「一歩前へ」の勧めがなされています。「弱い者を助けなさい」「すべての人に対して忍耐強く接しなさい。・・・いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」など。信仰に生きるものの余裕というものが在ります。ですから、この箇所を、堅苦しい「努力目標」や倫理的戒めとして読まない方がよいと思います。むしろ、自分にさえも与えられている「人への励まし、忍耐、喜び、祈り、感謝」を拾い出して熟慮してみる促しとして読んでは如何でしょうか。
- 2、二、三この週の私の身辺の証しをします。とつか保育園・とつか乳児保育園のクリスマスがこの明治学院チャペルで行われる日、18日が迫って来ました。「待つ」ことの絶えざる祈りがあります。私は、準備のため、職員会(11/12)、園児アドヴェント礼拝(保育園12/3)、乳児保育園(12/8)と三回の招きを受け「お話」をしました。園児たちも学院のクリスマスツリー点灯式参加(11/26)、現場会場予行演習(12/8, 12/15)と準備を進めています。当日が迫っています。その過程には、励まし、忍耐、喜び、祈り、感謝がいっぱいあります。
- 3、18日には参加を促されている別の集会があります。実際は、保育園クリスマスと重なり参加できません。「集会名「12・18この街から戦争にゆくな!第1軍団前方司令部移駐から3年、陸上自衛隊・中央即応集団司令部は来るな!18日午後1時集会、座間公園、2時デモ。主催バスストップから基地ストップの会」。不思議なことに、私の身代わりに参加してもらう「横断幕」があります。これはこの夏、平和聖日集会に市川三本松教会で講演したら、その聴衆の一人が、「私は行動はできないが、日頃パッチワークや刺繍をしているので、先生に集会やデモで使う横断幕を作ることには出来る」とおっしゃって、明治学院に職員として勤務する娘さんと二人で立派な横断幕を作り先週送っていただきました。この幕を主催者に託しました。喜びです。厚手の4メートルほどの白い布に「Only The People Can Stop TheWAR」を丹念に縫い付けたものです。神は民衆と共に在ります。これは世界の反戦の意志です。